

<資料提供>

徳島県勝浦町から発見された日本最古のスッポンモドキ科カメ類化石について

徳島県立博物館が、福井県立恐竜博物館や県内化石愛好家などの協力のもとすすめている徳島県勝浦町の恐竜化石含有層の発掘調査で、日本最古のスッポンモドキ科カメ類化石を発見しました。この発見について東京大学で開催された日本古生物学会第169回例（2020年2月7日～9日）で発表を行いました。

(1) 資料についての情報

・右下腹甲（図1）

大きさ 前後長 13mm 左右幅 25mm
発見場所 徳島県勝浦町に露出する恐竜化石含有層（ボーンベッド）
発見日 平成30年2月12日
発見者 田上浩久氏（徳島県化石同好会）



図1：勝浦町産のスッポンモドキ科カメ類の右下腹甲

・右第9縁板骨（図2）

大きさ 前後長 9mm 左右幅 9mm
発見場所 徳島県勝浦町に露出する恐竜化石含有層（ボーンベッド）
発見日 平成30年12月15日
発見者 徳島県立博物館職員



図2：勝浦町産のスッポンモドキ科カメ類の右第9縁板骨

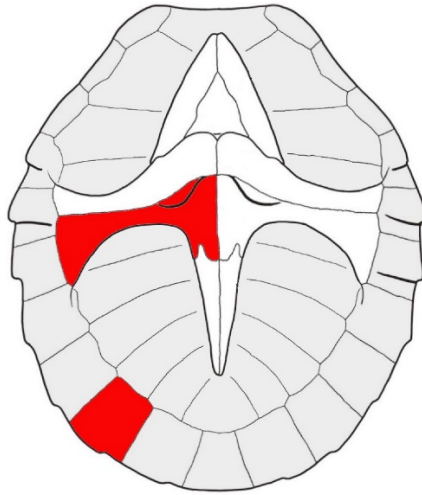


図3：勝浦町産のスッポンモドキ科カメ類の発見部位（赤色部）。
発見部位から、甲長は、約9 cmと推定されます。
※白亜紀のスッポンモドキ科キジルクメミスの甲羅
をお腹側から見た図。図の上方向が頭部が出る前方。

(2) スッポンモドキ科カメ類について

スッポンモドキ科は、スッポン科に最も近い淡水生のカメ類です。現在、世界中で1種類（スッポンモドキ）のみが、オーストラリア北部やニューギニア島の一部で知られており、絶滅も危惧されています。最古の記録は、タイの白亜紀前期の地層（約1億3500万年前）から見つかった化石です。その他の化石記録から、新生代（約6600万年～）にはアジアだけでなく世界中にも分布を広げたことが分かっています。2300万年前以降になると化石の記録が少なくなります。

(3) 発見のポイント

・これまで日本最古のスッポンモドキ科カメ類化石の記録は、福井県勝山市産の化石（約1億2000万年前）でしたが、徳島県勝浦町の化石は、それより約1000万年古く、新たに日本最古（約1億3000万年前）のものになりました。

・白亜紀前期のスッポンモドキ科カメ類の化石は世界的にも貴重であり、今回発見された化石はスッポンモドキ科の起源や進化を明らかにするために重要な標本です。

(4) 一般公開について

日時：令和2年2月11日（火・祝）～3月1日（日）

場所：徳島県立博物館常設展示室 ラプラタ記念ホール内トピックコーナー